

村消防団がポンプ操法県大会で3位

連夜の訓練成果実る

7月28日にいたてスボーツ公園陸上競技場で行われた「第33回福島県消防操法競技相馬地方大会」で、ポンプ車操法の部で優勝した村消防団第1分団機動部（草野）が、8月23日、福島市の県営

あづま総合運動公園で行われた県大会に出場し、見事3位に入賞しました。操法の指揮者を務めた高山さんは「5月から約100日間、ほとんど毎晩のように練習で大変だった。その結果3位入賞は



▲入賞の賞状と盾を手にする選手ら
写真右から 指揮者高山晴美▷一番員大井利裕
▷2番員石井真治▷三番員大和田昌裕
▷4番員濱野宏之▷補充員佐藤敬（敬称略）

素晴らしい成果だと思う。自分は県大会2度目だが、ぜひ選手たちに県大会の雰囲気のスゴさを味わってほしかったので頑張った。自分は指揮者なので、団員の實力を引き出す役割。今回はそれがうまくできたと思う。今度の大会では、練習の間、選手の娘さんが亡くなったたり、みんなつらさ、悲しさを乗り越えての入賞だった。ポンプ操法は体力の限界に挑む競技。今回の1位との差はわずかと聞いている。選手の実力も上がっている。選手が全国大会も夢ではない気がする」と大会入賞の感想を話していました。同大会での村消防団の入賞は、平成10年の3位に続いて2回目となりました。

こころのぼけっと

いろんな「力」

「継続は力なり」。まさしく「そうだな」ということが、これまでたくさんありました。でも、勇気をしぼってその「継続」を断ち切ることの大切さもあるようです。

飯館村の「村おこし」のシンボル事業であった、あいの沢での「牛肉フェスティバル」。実行委員の方の「疲れた」の言葉にふと疑問を感じ、とりやめて5年が経ちました。その後は、村の体育関係者と一緒になり、センター地区で「24時間リレーマラソン」という汗と感動のイベントに変えていきました。そして今回、牛肉の消費の落ち込み、地産地消の動きが背景にあったの「パートⅡ」事業になったのですが、いろんな住民参画が大幅に取り入れられ、内容の充実が図られて夜まで皆さんに喜んでいただけた、素晴らしいイベントに仕上がりました。もしイヤイヤ続けていたのでは、今年の大成功はなかったことでしょう。続けることも「力」、立ち止まって振り返ってみるのもこれまた「力」のようです。本当に難しいものです。いずれにしても決めた方向で力を合わせることで大切のようです。これから各地区や村で多くの催しがあることでしょう。家で横になって体を休めるもよし、コップを片手に夢見心地になるもよし。でも「参画」し「協働」してみても「さわやかな汗」をかくのもこれまた「さらによし」です。「さらによし」の方が実に多いのが「村の宝」だと私は思っています。

平成14年8月27日

飯館村長 菅野 典雄